

## 第5回「函館TOM向上推進事業」映像制作検討懇話会 会議録

【開催日時】 平成29年10月23日（月） 14:00～16:00

【開催場所】 函館市役所8階第2会議室

【出席者】 委員）奥平委員（座長），山口委員，若松委員，大場委員，  
岩田委員，中尾委員，佐々木委員，安立委員

事務局）函館市企画部

種田部長，田畑室長，竹崎政策推進課長，

山口主査，菊地主事

函館市教育委員会学校教育部北海道教育センター

辰巳指導主事

【次第】 1 開 会

2 議 事

(1) 追加意見

(2) 意見取りまとめ

(3) その他

3 閉 会

## 議事 発言要旨

### ○追加意見

#### 【奥平座長】

前回の会議で皆様から映像制作に関する形態および映像の活用方法についてご意見いただいたが、追加意見があればご意見いただきたい。

－意見無－

### ○意見取りまとめ

#### 【奥平座長】

これまでの会議で各委員より出された意見の取りまとめについて事務局に報告いただきたい。

#### 【事務局】

各委員から出された意見のある程度絞り込み、意見の取りまとめとして報告させていただきます。

ターゲットの基本は小学校3・4年生の社会科での活用とするが、小学校5・6年生の総合学習での活用や郷土愛という観点から小学校の道徳での活用も出来るもの。

内容は、大きく分けて歴史編、人物編、産業編、芸術・文化編、函館の魅力編の5つのカテゴリーで、副読本「わたしたちの函館」に沿いながらも、子供たちに興味を持ってもらえるもの。

映像作品の時間は、1編あたり5～8分。

納品形態は、映像データおよび配布用DVDとし、制作した映像は、市のホームページ内およびインターネット動画共有サービスにアップロードするとともに、市内小学校にDVDとして配布する。

映像内容のキーワード等としては、歴史編は、「函館の起こりから現在に至るまでの主な出来事を追い今の函館の姿」、「豊かな自然により発展した「縄文」」、「他都市とのつながりもある「昆布の歴史」」、「函館にいち早く入ってきた文化として「外国との交流」」、「大きな災害から何度も立ち上がってきた「大火と復興」」、「観光的にもメインコンテンツになる「函館山・五稜郭」」。

人物編は、「高田屋嘉兵衛」、「武田斐三郎」、「相馬哲平」など。

産業編は、「歴史の流れに関わる産業の推移」、「北洋漁業」「造船」「連絡船」「観光」」、「子供たちが将来函館で生活するうえでの「産業」」。

芸術・文化編は、「「港まつり」の始まった経緯、伝承・発展させてきた方の思い」、「子供たちにも非常に身近な「いか踊り」」、「「五稜郭祭」「クリスマスファンタジー」」。

函館の魅力編は、「北方の守りとして造られた歴史的遺産の「五稜郭」」、「函館の魅力ある「坂のある景色」」、「函館の発展の歴史の中で生まれた「上下和洋折衷の住宅」」、「宗教争いがなかった「4つの教会」と「東本願寺などの寺院」」、「電車、摩周丸の汽笛、ガンガン寺の鐘などの「音」」、「函館のNo.1をまとめる」。

その他、映像を作るにあたって、「子供たちの興味・関心を引くためクイズ形式を取り入れる」、「函館を売り込むシティプロモーションの視点」とした。

#### 【若松委員】

全体で何編くらいを想定しているのか。

### 【事務局】

これから来年度の予算要求を行う中で、他都市の状況なども調べているが本数が増えるとかかなり高額になる。また年度内に一度に作るとなると、同時並行で何本も制作作業をしなくてはならず、なかなか難しいという話もある。

何年かに分けて作るのか、まとめて作るのか精査が必要だと思っており、検討している最中である。

### 【安立委員】

1編あたり5～8分とあるが、もう少し短いイメージがあった。

例えば、「歴史編」にある「函館の起こりから現在に至るまで」を5～8分に納めると、ダイジェストで勉強するような形になってしまうと思うが、それでは今回制作しようとしているアウトプットとは違う気がする。

そもそも、小学生が見て興味を持ってもらうために、函館の凄いものの短編を集めていくという事で、まとまっていたと思う。

歴史編、人物編、産業編、芸術・文化編、函館の魅力編と分けて発表されていたが、この取りまとめだと歴史編で8分のもの1本、人物編で8分のもの1本作ると読まれかねないので、まとめ方を変えた方がいいと思う。

### 【佐々木委員】

私も同じ意見で、まとめ方を変えた方がいい気がする。

前回の会議の流れとしては、今まで話してきた様々なものの中で、やはり子供たちにとって魅力のあるものであるという話だったと思う。

だとすれば、函館のお宝、No.1になるだろうという話でまとまったと思っていた。

### 【大場委員】

事務局が示されたこの取りまとめは、1回目から4回目までの懇話会の協議の中で出てきたことそのままだと思う。お二人の委員が述べられたように、私も、4回目の協議を受け、「お宝」をキーワードに映像を作るイメージがあった。

### 【中尾委員】

歴史編、人物編を作るというよりは、お宝、No.1というものを出していき、そこに歴史、人物をくっつけるイメージである。

### 【岩田委員】

この取りまとめは、各委員からこれまで出された意見をまとめるうえで、このように記載したのだと思う。

### 【山口委員】

魅力を再発見する。学校だけの使用ではもったいないので、市外の方にも2次的3次的に情報提供をと。その順番でいったほうがよい。

### 【奥平座長】

佐々木委員と大場委員からお宝についての意見があるので、それについて各委員にご説明いただきたいと思う。

### 【佐々木委員】

函館山からの夜景や五稜郭、西部地区の坂や歴史的建造物など。外の視点で考えた中で、ランダムに思いついたものだが、これまでの会議で既に出たものである。

職場の20～30代の市内または市外出身の職員に聞いてみたが、ほぼ差がなかった。

### 【大場委員】

これまでの懇話会で協議されたことを私なりに消化し、考えた。今後の協議の中で加除修正いただければと思う。

また、私の立場から、小学校中学年の社会科を念頭に、「お宝」というキーワードで整理した。

お宝1つを5分とし、12個の宝で全体で60分となる。

宝の一つ目は、「わたしたちの住むまち・函館」とした。イントロダクションの意味合いもある。その次は「函館山からの眺望と主な地区」「イカやコンブ」「縄文遺跡や国宝」「大火と復興」「水と生活」など。

その他に「未来像」として、宝を活かし、宝を基に発展させる人のつながりという視点で考えた。

#### 【奥平座長】

佐々木委員、大場委員からの意見をたたき台に、お宝について、皆様から、ご意見いただきたいと思う。

#### 【中尾委員】

大きな項目とすれば、例えば大火の克服とすれば、日本で初期に整備された水道などの流れが一つある。

もう一つとしては、函館は日本でも初期に開港したという事で、教会群や寺院、上下和洋折衷住宅、五稜郭という流れという事で開港も外せない。

また交通や温泉は誇っていい事だと思う。

このたたき台は、内容を絞り込むためのいいヒントをもらえたと感じる。

#### 【佐々木委員】

外の視点という事で言うと、先週、岩手県の小学6年生が修学旅行で函館を訪れて、函館の魅力を探り、もっと魅力的な町にするにはどうしたらいいのかを考え、最終日に発表を行った。

最終日に行われた発表会に行ってきたが、班ごとに、「繋ぐ」をキーワードに、歴史と文化を繋ぐ、自然と食を繋ぐなどについて、3日間の滞在の間で自分たちが調べた事をもとに、こうした方がいいと思う事を理由を含めて発表していた。

その中で、函館の坂は下から見た風景と上から見た風景が全然違っているが、その両方ともに素晴らしいという意見や、道を尋ねると誰もが親切に伝えてくれて人が優しいと感じただとか、人に支えられているまちだと感じたという発表があった。

例えば、外から見た意見なども混ぜて、まとめていければ、後はそれをどうカテゴライズしていくかという所だけだと思う。

#### 【奥平座長】

佐々木委員から「繋ぐ」というキーワードが出てきたが、示唆的なものをいただいたと思う。

#### 【安立委員】

ターゲットは、小学生はもちろんだが、シティプロモーションという意見が出たので、それも併記した方がより意図が伝わると思う。

教材で作る事がメインではあるが、汎用性のあるものを作る。

形態としては、頭に入りやすいように、分かりやすいポイントを軸にして作っていく、テーマ構成を並列していく形をとった方がいいのではないかと。

ジャンル別の流れを説明するのではなく、興味をもってもらえるものをワンテーマ独立で作っていくという事が、まとめになると思う。ワンテーマ毎であれば、時間はもっと短いイメージがあるので、ここは3～5分程度としてはどうか。

前回の会議であった発言の中で、作った映像が、副読本のどこに対応しているのかの対応表をつけるという意見は、非常に良かったので、付記した方がいい。

【奥平座長】

佐々木委員と大場委員よりいただいた意見が既に細分化されたテーマになっていると思う。

【若松委員】

プロモーションならプロモーションと記載した方がいい。

映像が教育用なのか観光用なのか示してあげないと、映像制作業者は困ると思う。

【山口委員】

この事業の出発は、子供たちに函館の魅力を伝える事である。

入口はまず小学校の授業で使えるものだと思うので、ターゲットは今のまま小学生だけでいいと思う。

まずはターゲットは教育用にしておき、副次的に利用する人もいた方がいい。

【安立委員】

シティプロモーションの視点については、ターゲットとは別に追記するといいい。

【奥平座長】

教育を主とする事で皆様よろしいでしょうか。

－異議なし－

コンテンツについて、佐々木委員と大場委員の案をもとに、絞り込んでいき、副読本と上手くリンクさせて作っていくのが分かりやすいと思うがいかがが。

－異議なし－

【安立委員】

興味をもってもらえるテーマを1本1本集めたオムニバス形式がいいのでは。

【奥平座長】

オムニバス形式はいかかでしょうか。

－異議なし－

それでは、映像の長さについてはどうか。

【山口委員】

1つ1つの長さについては、映像テーマによっては15秒で伝わるものと5分でないと伝わらないものがあると思う。放送教育の成果を見れば、短くても映像自体の魅力で訴えるものもあるし、映像の中に学ぶための課題が織り込まれているものもある。街の良さを丁寧に理解するためには一定の長さ、例えば10分でもいいと思う。

【安立委員】

ある程度、長さは揃っている方がいいと思う。

【佐々木委員】

例えば3～5分にしておき、それで足りない時には、おまけの映像集などで対応すればいいのではと思う。

【安立委員】

私もそう思う。

【中尾委員】

次のワーキングなどの場で引き続き議論すればいいと思う。

【奥平座長】

今日の会議での意見も加味した取りまとめとしたいという事でよろしいかと思う。

それでは、今後の進め方について事務局から説明いただきたい。

**【事務局】**

今後の進め方だが、意見の取りまとめの次に、映像制作のための仕様書を作成することになる。

1 1月から2月にかけて平成30年度の市の予算要求の作業に入るが、他の都市の例だと1本200万、300万という所もある。

厳しい財政状況の中、どれくらいの予算がとれるのか難しい所もあり、中身を凝縮、または色々なものを取りまとめて作らざるを得ないかもしれない。その辺も皆様からいただいたご意見を最大限に活かしながら予算要求を進めていきたい。

毎年2月に何にいくら来年度予算をつけたいのか市の考えを記者発表という形で公表し、その後3月の市議会で承認いただいて、初めて予算が確定する。

その時点で、映像制作にかかる予算が、どれくらいかという事が明らかになる。

平成30年度から映像制作を開始するが、調査や撮影など映像の制作に長く期間を取った方がいいという事もあり、4月から制作に入れるような体制をとりたいと考えている。そのために年度内に事業者の選定をプロポーザルで実施、選定し、4月には事業者と契約を締結し、1年かけて制作したいと考えている。

実際に、来年度から制作していく中で、全員は難しいと思っているが検討懇話会の委員の方に引き続き一緒に映像を監修していただきたいと思っており、お願いする事もあると思うので、ご承知おきいただきたいと思う。

以上